

2014年3月期第2四半期決算 IR 説明会(2013/11/7 開催)

質疑応答内容

Q: エネルギー・金属の2014年3月期通期見通しを今回下方修正しているが、同セグメントの足元の状況を教えてほしい。

A: エネルギー・金属は主に3つの本部からなるが、そのうち石炭・原子力は順調。エネルギーは保有する石油権益の一部で追加の廃坑費用負担や埋蔵量の減少でコスト増加となり、見通しを修正した。ただ、下期には、他の保有権益の生産が順調ということもあり、収益の挽回をはかっていく。鉄鋼・金属資源はニッケル、モリブデンといった合金鉄の価格が想定に比べ低迷している状況。これらの状況を踏まえ、期初の通期見通しを下方修正した。

Q: 2013年9月末のネットDERが1.4倍と現行中期経営計画で掲げる財務目標をクリアできている状況だが、今後は投資を進めて成長に舵を取るという方針か。足元、やや縮小均衡にも見えるがどのようにお考えか。

A: ブラジルの農業・穀物事業や自動車関連事業、化学品関連事業など、新規投融資案件は目白押しであり、環境・インフラやプラントなどでも体制の再構築を行い、案件の積み上げを図っている。強いところをより強く、ボラティリティーを改善してより強い安定的な資産を作っていく。縮小均衡という方向に進んでいくつもりはない。

Q: コントローラー室を各営業部門に設置した狙いについて教えてほしい。

A: 営業部門によって、それぞれ商品やビジネス領域に特性、違いがあり、各コントローラー室はそれぞれの部門の特色をつかんだアドバイスをしていくことを基本とする。その上で、部門長や本部長と一緒に、スピード感をもって新規案件の組成を進め、優良資産の構築を目指していく。

Q: 連結対象会社の赤字額が前年同期比大きく変わっておらず、年間では▲200億円程度の赤字額となっているが、これは赤字額として許容できる範囲か。今後は減少していくのか。

A: エネルギー・金属資源関連での赤字がずっと続いていることは、経営の課題として認識している。このような状況を早期に解消し、極力赤字を減らすべく取り組んでいく。

Q: キャッシュフローは、上期で200億円の投資を実行しながらフリーキャッシュフローは黒字だが、今後下期のキャッシュフローの見通しについて教えてほしい。また、来期以降のフリーキャッシュフローの見通しの方向性を教えてほしい。

A: キャッシュフローは、資産の入替を行い、資産を大きく膨らませないことを基本方針としている。ある程度の収益規模が出てくるようになれば、資金を投融資に回すことができるようになる。そうなれば、ネットDERにも余力が生まれ、いろいろ検討していけるようになるだろう。投融資についてはタイミングが重要であり、現行の中期経営計画期間中に投資を先行することで一時的にフリーキャ

キャッシュフローがマイナスになることもあり得るとみている。次の中期経営計画のキャッシュフローの見通しは定まっていないが、基本的な考え方として負債・資産の両方を膨らます考えはない。

Q: 機械の自動車事業について、足元の状況を教えてほしい。

A: 自動車事業は、好調なフィリピンやロシアと、政情不安で不透明なベネズエラ等のプラスマイナスを差し引きし、期初見通し通りとみている。

Q: 生活産業の海外肥料事業について、今期は好調に推移しているが、来期をどのようにみているか。

A: 海外肥料事業が収益の柱のひとつであるという位置づけに変わりはないが、今期の好調な業績が来期も続くかどうかは、価格統制、原料価格等、慎重に見極めていく必要があり、現時点で見通すことは難しい。

以上